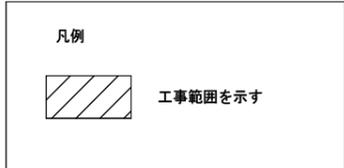
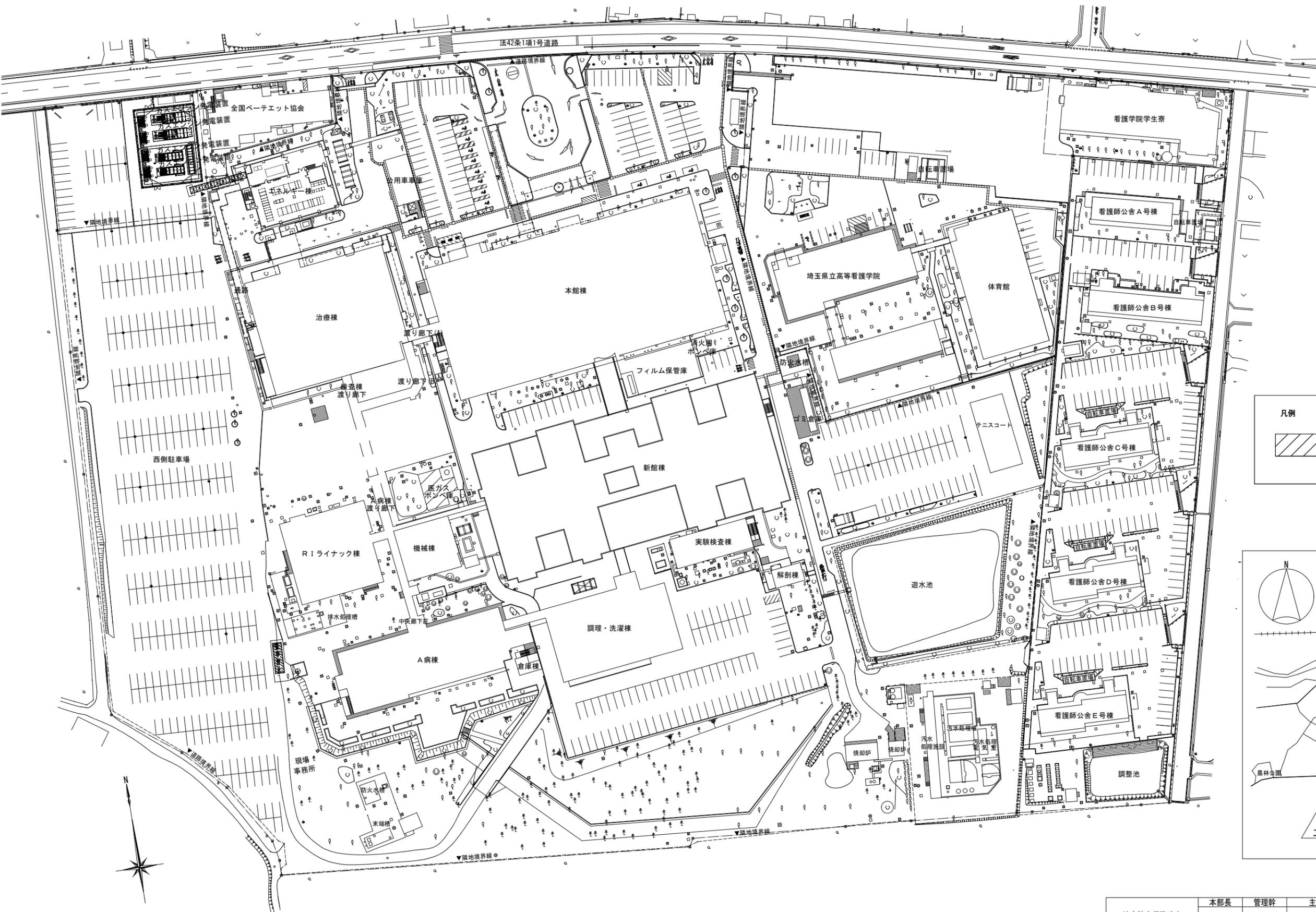


		<p>(3) 特に騒音振動など周辺に甚大な影響のある工事については、原則として学校では学校運営に支障を与えない期間、その他の施設では施設管理者と打合せして設定すること。</p> <p>(4) FF式温風暖房機の撤去・再取付、新規設置について FF式温風暖房機の一時的取外し、再取付、新規設置及び動作確認は、製造者又は製造者認定の代理店等に所属する「石油機器技術管理士」の登録を受けたもの（(一財)日本石油燃焼機器保守協会）が行い、記録を整備すること。なお、動作確認は、一時的取外し前、再取付け後の双方で行うこと。新規設置の場合は設置後に行うこと。</p>	<p>18 空気熱源ヒートポンプ空調機</p> <p>標準仕様書によるほか下記による。 (1) 圧縮機原動機の制御方式 ※回転数制御 ・ オンオフ制御 (2) 冷媒 HFC (R410A、R32又はR407C) (注1) R410Aを採用した場合、冷媒配管は機器の設計圧力を満足するものを使用すること。 (注2) R32を採用した場合、冷媒配管の新熱材被覆配管は難燃性のものを使用すること。 (3) 埼玉県グリーン調達推進方針で掲げる成績係数を満たす機器とする。</p>	<p>12 振音装置</p> <p>・女子用トイレブースに設置する。(※本工事 ・ 別途工事) ・男子用トイレブースに設置する。(※本工事 ・ 別途工事) ・バリアフリートイレブースに設置する。(※本工事 ・ 別途工事) 衛生設備器具の適用等の必要なことは別途衛生設備器具表による。</p>	<p>2 洗面器等の排水管</p> <p>洗面器等に直結する排水管は、器具トラップより1サイズアップする。</p> <p>3 満水試験継手</p> <p>3階以上にわたる排水立て管には、各階毎に次の継手を設ける。 ※掃除口付きソケット ・ 満水試験用掃除口ソケット</p> <p>4 樹の適用</p> <p>別紙樹表による。</p>																																					
		<p>1 長方形ダクト</p> <p>※低圧ダクト (亜鉛鉄板製) 長辺の長さ1500mm以下 ※共板工法 ・ スライドオンフランジ工法 ・ アングルフランジ工法 ・ アンクルフランジ工法 それ以外の部分 ※アングルフランジ工法 ・ 高圧1ダクト (亜鉛鉄板製) ・ 高圧2ダクト (亜鉛鉄板製) ・ ステンレス製ダクト (・ A区分 ※B区分) ・ 塩ビ製ダクト (・ A区分 ※B区分)</p> <p>2 円形ダクト</p> <p>※スパイラルダクト (※亜鉛鉄板製 ・ ステンレス製) ・ 硬質塩化ビニル管 (VU) ・ 耐火二層換気管又は耐火VVP ※フレキシブルダクト (・ 保温付 ・ 保温無) (注)1 使用区分は図示による。</p> <p>3 風量測定口</p> <p>取付け箇所は、図示した箇所及び下記の箇所とする。 送風機吐出ダクト又は吸込ダクト、外気取入ダクト</p> <p>4 チャンパー</p> <p>(1) 内貼りを施すチャンパーの表示寸法は外法を示す。 (2) 消音内貼りしたチャンパーには、点検口を設けるものとし、点検口の大きさは下記のとおりとする。 ・ 300×300 ・ 300×500 ※400×600 ・ 550×750 (3) 外壁に面するガラリに直接取り付けけるチャンパー及びホッパーは雨水が滞留しないようにする。</p> <p>5 ダンパー</p> <p>(1) 防煙ダンパー 復帰方式 (※遠隔 ・) 定格入力DC24V、0.7A以下 (2) ピストンダンパー 復帰方式 (※遠隔 ・)</p> <p>6 多温箇所排気ダクト</p> <p>(1) 排気ダクトのうち下配箇所は硬質塩化ビニル管 (VU) (防火区画直通箇所は換気用耐火二層管) を使用できる。 ※浴室 (シャワー室、脱衣室を含む) ・ (2) 水抜き管は (※厨房、浴室 ※結露水が滞留する部分 ・) の排気ダクトには設ける</p> <p>7 保温</p> <p>下記のダクトの保温を行う。 ※全熱交換器用の隠ぺい部ダクト 仕様はN・(ロ)・X1とする。 保温施工範囲は、給気用OAダクトは全て、また、排気用EAダクトは外壁より1mの部分とする。 ※ (※厨房 ・ 湯沸室 ・) 用の隠蔽ぺい部ダクト (仕様はh・(イ)・IXとし範囲は図示による)</p> <p>8 試運転調整</p> <p>風量調整 ※する ・ しない 風量測定 ※する ・ しない 騒音の測定 ※する ・ しない</p>	<p>1 配管材料</p> <p>配管材料は ※下記 ・ 図面指示 (図面指示が不足する箇所は下記) による。</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>管種別</th> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む。)</td> <td>※SUS ・ SGP-PD ・ ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>ウエット厨房、浴室等の湿潤シンダー内配管</td> <td>※SUS ・ SGP-PD ・ HIVP ・ ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>保温をしない屋外露出部</td> <td>※SUS ・ SGP-PD</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部 (水道直結部分)</td> <td>※HIVP ・ 水道用ステンレス鋼管 ・ 水道配水用ポリエチレン管 (PE)</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部 (一般部分)</td> <td>※HIVP ・ 水道用ポリエチレン管 ・ 水道配水用ポリエチレン管 (PE)</td> </tr> <tr> <td>県営住宅 住戸内</td> <td>※ポリブテン管 (さや管ヘッダー工法)</td> </tr> <tr> <td>便所天井内、PS内 (注5)</td> <td>※高密度ポリエチレン管 (32A以上)</td> </tr> <tr> <td>便所天井内</td> <td>※ポリブテン管 (10mm保温付)</td> </tr> <tr> <td>便所空腔壁内又は衛生器具等接続管</td> <td>※ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※SUS ・ SGP-PD ・ HIVP ・ ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む。)</td> <td>※SUS ・ SGP-PD ・ HIVP ・ ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>湿潤シンダー内配管</td> <td>※SUS ・ SGP-PD ・ HIVP ・ ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>保温をしない屋外露出部</td> <td>※SUS ・ SGP-PD</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部 (一般部分)</td> <td>※HIVP ・ 水道用ポリエチレン管 ・ 水道配水用ポリエチレン管 (PE)</td> </tr> <tr> <td>便所天井内、PS内 (注5)</td> <td>※高密度ポリエチレン管 (32A以上)</td> </tr> <tr> <td>便所天井内</td> <td>※ポリブテン管 (10mm保温付)</td> </tr> <tr> <td>便所空腔壁内又は衛生器具等接続管</td> <td>※ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※SUS ・ SGP-PD ・ HIVP ・ ポリブテン管</td> </tr> </table> <p>(注)1. SUSとは、JIS G 3448 またはJWMA G 115に規定するステンレス鋼管とし、継手は一般部 (・圧縮・ダブり) ※拡管) 使用・廊下流し廻り露出配管 (※拡管) とする。 2. ステンレス管に取付ける弁は、JV8-11による。 3. 飲料水以外の給水管は、系統別に管外部に配管識別テープを巻く。また、該接続がないことを確認するため衛生器具の取付完了後、系統毎に着色水を用いた通水試験を行う。 4. 建物導入部において、ポリエチレン管と異種管を接合する場合は、接合部が容易に点検できるように点検用柵を設ける。 5. 口径2.5Aにて大便器等に接続する場合は、施工状況に応じて高密度ポリエチレン管の使用も可とする。 6. 高密度ポリエチレン管とは、主材料に高密度ポリエチレン樹脂 (PE100) を採用し、管と継手を電気融着にて接合するものをいう。 7. 地中埋設部 (水道直結部分) は水道事業者の指示による。</p>	施工箇所	管種別	床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む。)	※SUS ・ SGP-PD ・ ポリブテン管	ウエット厨房、浴室等の湿潤シンダー内配管	※SUS ・ SGP-PD ・ HIVP ・ ポリブテン管	保温をしない屋外露出部	※SUS ・ SGP-PD	地中埋設部 (水道直結部分)	※HIVP ・ 水道用ステンレス鋼管 ・ 水道配水用ポリエチレン管 (PE)	地中埋設部 (一般部分)	※HIVP ・ 水道用ポリエチレン管 ・ 水道配水用ポリエチレン管 (PE)	県営住宅 住戸内	※ポリブテン管 (さや管ヘッダー工法)	便所天井内、PS内 (注5)	※高密度ポリエチレン管 (32A以上)	便所天井内	※ポリブテン管 (10mm保温付)	便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管	その他の部分	※SUS ・ SGP-PD ・ HIVP ・ ポリブテン管	床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む。)	※SUS ・ SGP-PD ・ HIVP ・ ポリブテン管	湿潤シンダー内配管	※SUS ・ SGP-PD ・ HIVP ・ ポリブテン管	保温をしない屋外露出部	※SUS ・ SGP-PD	地中埋設部 (一般部分)	※HIVP ・ 水道用ポリエチレン管 ・ 水道配水用ポリエチレン管 (PE)	便所天井内、PS内 (注5)	※高密度ポリエチレン管 (32A以上)	便所天井内	※ポリブテン管 (10mm保温付)	便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管	その他の部分	※SUS ・ SGP-PD ・ HIVP ・ ポリブテン管	<p>1 配管材料</p> <p>屋内消火栓用 一般配管※SGP (白) ・ STPG370 (白) Sch40 地中埋設※SGP-VS ・ HIVP 消火用 一般配管※SGP (白) ・ STPG370 (白) Sch40 地中埋設※SGP-VS ・ HIVP 不活性ガス消火用 ※STPG370 (白) Sch40 ・ STPG370 (白) Sch80</p> <p>2 建物導入部配管</p> <p>図示部分について下記のとおり施工する。 ※埋設用フレキシブルジョイント2本をL字状に設ける。 ・ 標準図施工4 (・ (a) ・ (b) ・ (c))</p>
施工箇所	管種別																																									
床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む。)	※SUS ・ SGP-PD ・ ポリブテン管																																									
ウエット厨房、浴室等の湿潤シンダー内配管	※SUS ・ SGP-PD ・ HIVP ・ ポリブテン管																																									
保温をしない屋外露出部	※SUS ・ SGP-PD																																									
地中埋設部 (水道直結部分)	※HIVP ・ 水道用ステンレス鋼管 ・ 水道配水用ポリエチレン管 (PE)																																									
地中埋設部 (一般部分)	※HIVP ・ 水道用ポリエチレン管 ・ 水道配水用ポリエチレン管 (PE)																																									
県営住宅 住戸内	※ポリブテン管 (さや管ヘッダー工法)																																									
便所天井内、PS内 (注5)	※高密度ポリエチレン管 (32A以上)																																									
便所天井内	※ポリブテン管 (10mm保温付)																																									
便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管																																									
その他の部分	※SUS ・ SGP-PD ・ HIVP ・ ポリブテン管																																									
床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む。)	※SUS ・ SGP-PD ・ HIVP ・ ポリブテン管																																									
湿潤シンダー内配管	※SUS ・ SGP-PD ・ HIVP ・ ポリブテン管																																									
保温をしない屋外露出部	※SUS ・ SGP-PD																																									
地中埋設部 (一般部分)	※HIVP ・ 水道用ポリエチレン管 ・ 水道配水用ポリエチレン管 (PE)																																									
便所天井内、PS内 (注5)	※高密度ポリエチレン管 (32A以上)																																									
便所天井内	※ポリブテン管 (10mm保温付)																																									
便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管																																									
その他の部分	※SUS ・ SGP-PD ・ HIVP ・ ポリブテン管																																									
○空気調和設備	<p>○換気設備</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">外 気</th> <th colspan="2">一 般 系 統</th> <th colspan="2">屋 内</th> </tr> <tr> <td>温度 (DB)</td> <td>湿度 (RH)</td> <td>温度 (DB)</td> <td>湿度 (RH)</td> <td>温度 (DB)</td> <td>湿度 (RH)</td> </tr> <tr> <td>夏 期</td> <td>37.1℃ 47.1%</td> <td>28℃</td> <td>9%</td> <td>℃</td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>冬 期</td> <td>0.5℃ 49.4%</td> <td>20℃</td> <td>9%</td> <td>℃</td> <td>9%</td> </tr> </table> <p>※外気処理用エアコンの屋内設定値は、夏期湿度50%とする。</p> <p>2 総合試運転調整</p> <p>※本工事 ・ 別途 風量調整 ※する ・ しない 水量調整 ・ する ※しない 騒音の測定 ・ する ※しない</p> <p>3 煙道</p> <p>(1) 鉄板厚 (※3.2mm ・ 4.5mm) (2) ばい煙濃度計 ※設ける ・ 設けない (3) ばいじん量測定口 ※設ける (測定口は8φとする) ・ 設けない</p> <p>4 煙突</p> <p>※別途 ・ 本工事</p> <p>5 長方形ダクト</p> <p>※低圧ダクト (亜鉛鉄板製) 長辺の長さ1500mm以下 ※共板工法 ・ スライドオンフランジ工法 ・ アングルフランジ工法 それ以外の部分 ※アングルフランジ工法 ・ 高圧1ダクト (亜鉛鉄板製) ・ 高圧2ダクト (亜鉛鉄板製) ・ ステンレス製ダクト (・ A区分 ※B区分) ・ 塩ビ製ダクト (・ A区分 ※B区分)</p> <p>6 円形ダクト</p> <p>※スパイラルダクト (※亜鉛鉄板製 ・ ステンレス製) ・ 硬質塩化ビニル管 (VU) ・ 換気用耐火二層管 (大臣認定品) ※フレキシブルダクト (・ 保温付 ・ 保温無) (注)1 使用区分は図示による。</p> <p>7 風量測定口</p> <p>取付け箇所は、図示した箇所及び下記の箇所とする。 送風機吐出ダクト又は吸込ダクト、外気取入ダクト、空調機出口チャンパーの分岐ダクト</p> <p>8 チャンパー</p> <p>(1) 内貼りを施すチャンパーの表示寸法は外法を示す。 (2) ダクト接続形の空気調和機等に取り付けるサプライチャンパー、レタンチャンパー及びダクト系で消音内貼りしたチャンパーには、点検口を設けるものとし点検口の大きさは下記のとおりとする。 ・ 300×300 ・ 300×500 ※400×600 ・ 550×750 (3) 外壁に面するガラリに直接取り付けけるチャンパー及びホッパーは雨水が滞留しないようにする。</p> <p>9 吹出口及び吸込口ボックス</p> <p>※亜鉛鉄板製 ・ グラスウール製</p> <p>10 ダンパー</p> <p>(1) 防煙ダンパー 復帰方式 (※遠隔 ・) 定格入力DC24V、0.7A以下 (2) ピストンダンパー 復帰方式 (※遠隔 ・)</p> <p>11 配管材料</p> <p>(1) 冷水管 ※配管用炭素鋼管 (白) ・ (2) 冷却水管 ※配管用炭素鋼管 (白) ・ (3) プライン管 ※配管用炭素鋼管 (黒) ・ (4) 冷媒管 ※断熱材被覆鋼管 (保温厚mm ガス管 ※20以上 ・ 10以上 液管 ・ 20以上 ※10以上) (5) ドレン管 (屋外) ※配管用炭素鋼管 (白) ・ 硬質塩化ビニル管VVP ドレン管 (屋内) ※保温機能付空調用ドレン管 (XPOADレナゲル 相当品) ・ 耐火二層管VVP (FDPS-1) ・ 配管用炭素鋼管 (白) ・ 硬質塩化ビニル管VVP (消防協議事項： ただし、保温機能付空調用ドレン管は、水圧1mを超える配管には使用しない。 (6) 油管 ※配管用炭素鋼管 (黒) ・ (7) 蒸気管 給気管 ※配管用炭素鋼管 (黒) ・ 送 送 管 ※圧力配管用炭素鋼管 (黒) Sch40 ・ ステンレス鋼管 (8) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管 ※配管用炭素鋼管 (白) ・</p> <p>12 弁 類</p> <p>規格はJIS又はJVとし、指定なきものは5K、それ以外は図示及び共通仕様書による。また、鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。</p> <p>13 温度計</p> <p>取付部は下記による。 ※熱源機器の冷温水管 (出入口共)、冷却水管 (出入口共) ※空気調和機の冷温水管 (出入口共) ※ダクト接続形空気調和機のサプライチャンパー、レタンダクト、 外気取入ダクト及びレタンチャンパー ※冷温水ヘッダー (往) 及び各選り管 ※熱交換器の温水管 (出入口) ・</p> <p>14 圧力計</p> <p>取付部は下記による。 ※熱源機器の冷温水管 (出入口共)、冷却水管 (出入口共) ※空気調和機の冷温水管 (出入口共) ※冷温水ヘッダー (往) 及び各選り管 ※熱交換器の温水管 (出入口) ・</p> <p>15 瞬間流量計</p> <p>瞬間流量計はピトー管方式によるもので止水コック付とし、型式及び取付部は下記による。なお、着脱部の指示部は (※1個 ・ 個) 付属とする。 ・ 熱源機器の冷温水管、冷却水管の出入口どちらかに (※固定形 ・ 着脱形) を設ける。 ・ 空気調和機の冷温水管の出入口どちらかに (※固定形 ・ 着脱形) を設ける。</p> <p>16 油面制御装置</p> <p>※往又は還どちらかの冷温水ヘッダーの各接続管へ (※固定形 ・ 着脱形) を設ける。 制御盤には (※給油ポンプ制御 ※減油警報 ・ 遠隔警報 ・ 電磁弁制御 ・ 返油ポンプ制御) の端子を設ける。 なお、フローコントロール部と制御装置の配管・配線は製造者標準仕様とする。</p> <p>17 冷却塔</p> <p>※直交流式 ・ 向流型 ※レジオネラ属菌殺菌剤等の自動薬剤注入装置 ※自動ブロー装置 ・ 補給水は、水道水とし、補給水接続管部分に清掃用の水栓を分岐して設ける。</p>	外 気		一 般 系 統		屋 内		温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	夏 期	37.1℃ 47.1%	28℃	9%	℃	9%	冬 期	0.5℃ 49.4%	20℃	9%	℃	9%	<p>○給湯設備</p> <p>1 配管材料</p> <p>取付部は下記による。 ※鋼管と銅管及びこれに類する部分 ※鋼管とステンレス管及びこれに類する部分</p> <p>2 絶縁フランジ</p> <p>3 弁 類</p> <p>(1) 規格はJIS又はJVとし、指定なきものは5K、それ以外は図示による。 (2) ステンレス管に取付ける弁は、JV8-11による。</p> <p>4 ガス瞬間湯沸器</p> <p>※屋外設置の潜熱回収型 ・ PS扉内設置の潜熱回収型</p> <p>5 電気給湯器</p> <p>飲用の場合は、80℃以上で使用可能なものとし、「熱湯注意」の表示をする。</p> <p>○消火設備</p> <p>1 配管材料</p> <p>屋内消火栓用 一般配管※SGP (白) ・ STPG370 (白) Sch40 地中埋設※SGP-VS ・ HIVP 消火用 一般配管※SGP (白) ・ STPG370 (白) Sch40 地中埋設※SGP-VS ・ HIVP 不活性ガス消火用 ※STPG370 (白) Sch40 ・ STPG370 (白) Sch80</p> <p>2 建物導入部配管</p> <p>図示部分について下記のとおり施工する。 ※埋設用フレキシブルジョイント2本をL字状に設ける。 ・ 標準図施工4 (・ (a) ・ (b) ・ (c))</p> <p>○医療ガス設備</p> <p>1 配管材料</p> <p>・ 都市ガス ガス事業者の供給規定による。埋設配管はPE管を原則とする。 ・ 液化石油ガス 一般配管 ※合成樹脂被覆鋼管 ・ SGP (白) 地中埋設 ※PE管 ○エア、吸引 SGP (白) ・ CUT 漏洩検知装置は、流量検知圧力監視型とする。</p> <p>2 ガス漏れ警報遮断装置</p> <p>3 液化石油ガスの供給権</p> <p>ガス設備工事の施工者にガスの供給権は付帯しない。</p> <p>○厨房設備</p> <p>1 厨房機器の固定</p> <p>原則として、移動を前提とする厨房機器を除き地震時に転倒及び位置ずれを起こさないよう、床又は壁に堅固に取り付ける。</p> <p>2 シンク用水栓</p> <p>※レバー式泡沫水栓 ・ 自動水栓</p> <p>3 安全装置の機能の適用</p> <p>標準仕様書第5編1・6・1の表5.1.7安全装置の表中の△の項目はすべて適用とする。</p> <p>舗装版切断時に発生する濁水の処理に係る特記仕様書</p> <p>第1条 この特記仕様書は、埼玉県機械設備工事特別共通仕様書に定めるもののほか、アスファルト舗装版切断時に発生する濁水 (以下「濁水」という。) の処理に関し必要な事項を定めるものである。</p> <p>第2条 受注者は、回収した濁水を次のとおり処理するものとする。 ・ 種類及び処理量 汚泥 (油分を含む汚泥) ・ m3 ・ 中間処理施設 市 地内、(株) ・ ・ 処理方法 ・ 中間処理後、最終処分場に搬入 (処理に焼却又は溶融含まず) ・ 中間処理後、最終処分場又は再資源化 (処理に焼却又は溶融を含む) 2 受注者は、別の中間処理施設を選定する場合には、事前に監督員と協議するものとする。</p> <p>第3条 受注者は、舗装版切断作業を行いながら濁水を可能な限り回収し、作業後速やかに回収した濁水を産業廃棄物の汚泥 (油分を含む汚泥) として中間処理施設に運搬及び処理するものとする。 2 受注者は、汚泥の中間処理業の許可を受けている業者と産業廃棄物処分委託契約を締結しなければならないものとする。 3 受注者は、自ら運搬を行う場合を除き、汚泥の収集運搬業の許可を受けている業者と産業廃棄物収集運搬委託契約を締結しなければならないものとする。 4 受注者は、濁水の処理に関する履行について、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において定める産業廃棄物管理票 (以下「マニフェスト」という。) により管理するものとする。</p> <p>第4条 受注者は、施工計画書において、濁水の回収、運搬及び処理に関する方法を定めなければならないものとする。また、中間処理業者及び収集運搬業者と第3条第3項及び第4項に基づき締結した委託契約書の写し及び許可証の写しを添付すること。 2 受注者は、工事検査時にマニフェスト原本を提示する。</p> <p>第5条 濁水処理量については、舗装版の切断延長や切断厚が変わった場合を除き、原則として設計変更の対象としないものとする。 2 受注者は、舗装版切断時に濁水を生じない工法を使用する場合には、事前に監督員と協議するものとする。 3 この特記仕様書に疑義等が生じた場合については、別途監督員と協議するものとする。</p> <p>病院業務に支障を及ぼさない様に、各設備機能を停止せずに複数台の機器、配管を切替ながら更新工事を行う事。</p>																
外 気		一 般 系 統		屋 内																																						
温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)																																					
夏 期	37.1℃ 47.1%	28℃	9%	℃	9%																																					
冬 期	0.5℃ 49.4%	20℃	9%	℃	9%																																					
		<p>1 中央監視制御装置</p> <p>・ 有り ※無し</p> <p>2 構成・機能</p> <p>図示による</p> <p>3 電気計装用機材</p> <p>使用する電線及びケーブルは、原則としてEM電線またはEMケーブルとする。 屋外 ・ 屋内露出の電線は、図面に特記のない限り金属管配線とする。 天井内隠ぺい電線は、図面に特記のない限りケーブル配線とする。</p> <p>1 小機器用排水装置</p> <p>JIS B 2026 (自動水栓) による電気開閉式とし、小機器 (※一体形・分離形) とする。</p> <p>2 バリアフリー対応</p> <p>・ 小機器 ※全部ストール形 ・ 一部ストール形 手すり (・ 本工事 ※別途工事) ・ 洗面器 ※自動水栓 (・ 全部 ※一部) ・ レバー式水栓 (一部) ・ シャワー ※サーモスタット式 ・ ミキシング式 ※スライドバー ・ フック ※止水機能付節水形シャワーヘッド ※600×800 (耐食鏡) ・ 傾斜鏡 (照明無 ・ 照明付)</p> <p>3 衛生器具付風呂水栓</p> <p>(1) 器具付属止水水栓は ※ドライパー式 ・ ハンドル式 (2) 水抜き栓を使用する場合は、水栓は固定コマ式とする。</p> <p>4 自動水栓類の電源</p> <p>※AC100V ・ 乾電池等 ・ 自己発電</p> <p>5 暖房便座</p> <p>(1) JIS A 4422 (温水洗浄便座) とする。 (2) 機能種別 ※温水洗浄 ※脱臭 ・ 温風乾燥 ・ トイレ室内暖房 (3) 温水洗浄加熱方式 ※瞬間式 ・ 貯湯式 (4) 使用流体は、飲料用水道水とする。 (5) リモコン ・ AC100V ・ 乾電池等 ※自己発電</p> <p>6 大便器洗浄弁・洗浄用タンク</p> <p>器具表又は下記の場合を除き、※節水I型 ・ 節水II型とする。 ・ 洗浄弁操作方式は、※手動式 ・ 電気開閉式 (※センサー式 ・ タッチスイッチ式) ・ 上層階で使用する大便器洗浄弁は、現地給水管の流動圧を確認し、必要に応じ低圧形とする。</p> <p>7 大便器耐火カバー</p> <p>※設ける (ピット内は除く) ・ 設けない</p> <p>8 掃除戻し</p> <p>※共栓なしとする。 ・ 共栓付とする。</p> <p>9 排水器具用JL継手</p> <p>※使用できる ・ 使用できない</p> <p>10 標記板</p> <p>大便器、小便器の洗浄用水に雨水等の利用をしている場合は、その旨をわかりやすく各トイレ毎に表示する。</p> <p>11 水せつけん入れ</p> <p>せっけん供給栓等がない場合は、監督員と協議のうえ洗面器、手洗い器に設ける。</p>	<p>2 一体形タンク</p> <p>一体形タンクについての標準図は一般的な形状及び数値を示すものであって、図面及び特記仕様書に記載された耐震強度、容量、寸法を満たすものであればよい。</p> <p>3 水栓</p> <p>※給湯用水栓を除き大きめの呼び1.3の水栓は、節水コマとする。 ・ 水抜き栓を使用する場合は、屋外に設ける水栓は耐寒水栓とする。ただし屋内は固定コマ式とする。</p> <p>4 量水器</p> <p>※観メーター (※賞与品 ・) ・ 子メーター (※買取り ・)</p> <p>5 量水器柵</p> <p>※水道事業者指定品 ・ 標準図MC形</p> <p>6 弁 類</p> <p>規格はJIS又はJVとし、水道直結部分は10Kとし、指定なきものは5K、それ以外は図示及び標準仕様書による。</p> <p>7 水栓柱</p> <p>・ 防寒コンクリート水栓柱 (1200L) ※不凍給水栓</p> <p>8 建物導入部配管</p> <p>図示部分について下記のとおり施工する。 ※埋設用フレキシブルジョイント2本をL字状に設ける。 ・ 標準図施工4 (・ (a) ・ (b) ・ (c))</p> <p>9 検針方法</p> <p>水道事業者の集合住宅に関する戸別検針規程に適合するように関連工事者と調整のうえ施工すること。</p> <p>10 水道利用加入金</p> <p>水道利用加入金は、別途とする。ただし、水道事業者との調整は本工事に含む。</p> <p>11 本管取出し</p> <p>水道本管からの給水取出し工事は、本工事範囲とする。また、取出し部における舗装の復旧も含む。</p>	<p>○排水設備</p> <p>1 配管材料</p> <p>配管材料は ※下記 ・ 図面指示 (図面指示が不足する箇所は下記) による。</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>管種別</th> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む。)</td> <td>※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP</td> </tr> <tr> <td>厨房等の温排水</td> <td>※SGP (白) ・</td> </tr> <tr> <td>耐火性能を要求される箇所</td> <td>※耐火二層管VVP (FDPS-1) 又は耐火VVP ・ SGP (白)</td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</td> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む。)</td> <td>※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP</td> </tr> <tr> <td>耐火性能を要求される場所</td> <td>※耐火二層管VVP (FDPS-1) 又は耐火VVP ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部</td> <td>※RS-VU又はリサイクルVU ・ VU ・ 卵形管 (ゴム輪接合) ・ REF-VU (軽荷重の場合) ・ RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP</td> </tr> <tr> <td>共通</td> <td>※耐火二層管VVP (FDPS-1) 又は耐火VVP ・ SGP (白)</td> </tr> <tr> <td>通気配管</td> <td>※リサイクルVVP又はRF-VVP ・ VVP ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</td> </tr> </table> <p>(注)1. リサイクルVVP、リサイクルVUはJIS K6741の規格をもつ塩ビリサイクル管RF-VVP、RS-VU又は、REP-VUは標準仕様書第2編2.1.2.6による。 2. 雨水排水を含む場合は、雨水排水管は雑排水配管の材料種別による。 3. 原則として雑排水配管、水配管の管接合部はV45度で行う。</p>	施工箇所	管種別	床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む。)	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP	厨房等の温排水	※SGP (白) ・	耐火性能を要求される箇所	※耐火二層管VVP (FDPS-1) 又は耐火VVP ・ SGP (白)	その他の部分	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む。)	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP	耐火性能を要求される場所	※耐火二層管VVP (FDPS-1) 又は耐火VVP ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	その他の部分	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	地中埋設部	※RS-VU又はリサイクルVU ・ VU ・ 卵形管 (ゴム輪接合) ・ REF-VU (軽荷重の場合) ・ RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP	共通	※耐火二層管VVP (FDPS-1) 又は耐火VVP ・ SGP (白)	通気配管	※リサイクルVVP又はRF-VVP ・ VVP ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管																
施工箇所	管種別																																									
床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む。)	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP																																									
厨房等の温排水	※SGP (白) ・																																									
耐火性能を要求される箇所	※耐火二層管VVP (FDPS-1) 又は耐火VVP ・ SGP (白)																																									
その他の部分	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管																																									
床下、暗渠内 (ピット内、共同溝を含む。)	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP																																									
耐火性能を要求される場所	※耐火二層管VVP (FDPS-1) 又は耐火VVP ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管																																									
その他の部分	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管																																									
地中埋設部	※RS-VU又はリサイクルVU ・ VU ・ 卵形管 (ゴム輪接合) ・ REF-VU (軽荷重の場合) ・ RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP																																									
共通	※耐火二層管VVP (FDPS-1) 又は耐火VVP ・ SGP (白)																																									
通気配管	※リサイクルVVP又はRF-VVP ・ VVP ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管																																									
		<p>設計年月日</p> <p>R06.03.21</p> <p>地方独立行政法人埼玉県立病院機構本部</p> <p>本部長</p> <p>管理幹</p> <p>主 幹</p> <p>主 査</p> <p>主 査</p> <p>担 当</p> <p>縮 尺</p> <p>工 事 名 称</p> <p>24循環器・呼吸器病センター 医療ガス棟医療ガス設備改修工事</p> <p>図 面 名</p> <p>機械設備工事特記仕様書 (2)</p> <p>図面番号</p> <p>M-02</p>	2024.4																																							

環境配慮 (グリーン) 改修工事	1 アスベスト処理工事 一般共通事項	留意事項 1 本工事は、アスベスト含有のおそれのある吹付け材、保温材又はダクトパッキン等を撤去する工事が含まれる場合に適用する。設備改修に伴う、アスベスト含有材への開口などの小規模改修工事は本仕様書に準じて行うものとする。 2 アスベスト処理を所管する行政の指導がある場合は、それによるものとし、監督員に報告し協議する。 3 この工事においては、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）（以下「改修仕様」という）及び「建築物等の解体に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」（令和3年3月 厚生労働省・環境省）による。																																																																																																																									
	2 アスベスト含有分析 調査	分析によるアスベスト含有建材の調査 [9.1.1] ・ 行う（下表による） <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料 名</th> <th>調査方法（1材料あたりの試料数：3サンプル）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>※ 定性分析 ・ 定量分析</td> </tr> </tbody> </table> 採取箇所 ※ 図示 分析対象 ※ アスベスト 6 種類（アモサイト、クリソタイル、クロシドライト、アクチノライト、アンソフィライト、トレモライト） 調査方法・分析方法 ※ JIS A 1481 規格群（1481-1, 2, 3, 4）「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」に準拠する。 分析結果については、監督員に提出すること。	材 料 名	調査方法（1材料あたりの試料数：3サンプル）		※ 定性分析 ・ 定量分析		※ 定性分析 ・ 定量分析		※ 定性分析 ・ 定量分析		※ 定性分析 ・ 定量分析																																																																																																															
	材 料 名	調査方法（1材料あたりの試料数：3サンプル）																																																																																																																									
	※ 定性分析 ・ 定量分析																																																																																																																										
	※ 定性分析 ・ 定量分析																																																																																																																										
	※ 定性分析 ・ 定量分析																																																																																																																										
	※ 定性分析 ・ 定量分析																																																																																																																										
3 アスベスト粉じん 濃度測定	アスベスト粉じん濃度測定 [9.1.1] ・ 行う（測定名称及び測定点は下表による） 測定箇所 ※ 図示 <table border="1"> <thead> <tr> <th>適 用</th> <th>測定名称</th> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定点数 (各処理作業ごと)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>レベル1</td> <td>レベル2</td> <td>レベル3</td> <td>測定1</td> <td>処理作業前</td> <td>処理作業室内</td> <td>※各2点・各3点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>・</td> <td>測定2</td> <td>処理作業前</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>・</td> <td>測定3</td> <td>処理作業中</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>測定4</td> <td>処理作業中</td> <td>セキュリティゾーン入口</td> <td>各1点</td> <td>空気の流れを確認</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>測定5</td> <td>処理作業中</td> <td>負圧・除じん装置の排出口（処理作業室外の場合）</td> <td>各1点</td> <td>除じん装置の性能確認</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>・</td> <td>測定6</td> <td>処理作業中</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>・</td> <td>測定7</td> <td>処理作業後</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点（レベル3は1点）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>・</td> <td>測定8</td> <td>処理作業後 (隔離シート撤去前)</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>・</td> <td>測定9</td> <td>処理作業後</td> <td>処理作業室内</td> <td>各2点（レベル3は1点）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>・</td> <td>測定10</td> <td>処理作業後 (シート撤去後1週間以降)</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界</td> <td>4方向各1点</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> アスベスト粉じん濃度測定方法 アスベスト粉じん濃度測定は「JIS K 3850-1:2006 空気中の繊維状粒子測定方法-第1部：光学顕微鏡法及び定査電子顕微鏡法」の「6.2 位相差・分散顕微鏡法」による。 測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>測定3</th> <th>測定1, 2, 4, 6, 7, 8, 9, 10</th> <th>測定5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計数機器</td> <td>位相差・分散顕微鏡</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ファンノックの直径</td> <td>25 mm</td> <td></td> <td>47 mm</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引流量</td> <td>1 l/min</td> <td>5 l/min</td> <td>10 l/min</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引時間</td> <td>5 min</td> <td>120 min</td> <td>240 min</td> </tr> <tr> <td>試料の透明化</td> <td>アセトントリアセチレン法又は、シュウ酸ジエチル法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計数条件</td> <td>総アスベスト繊維数 200 本又は視野数 50 視野</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計数アスベスト</td> <td>直径(幅) 3µm 未満、長さ 5µm 以上、長さ直径比 3:1 以上の繊維状物質</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定量限界</td> <td>50 f/l</td> <td>0.5 f/l</td> <td>0.3 f/l</td> </tr> </tbody> </table> 報告書の作成（記録する項目） ア 測定結果 イ 測定時間 ウ 測定位置（測定高さとともに図面上に記載） エ サンプリング条件（メンブレンフィルタ直径、吸引時間、吸引空気量） オ マウンティング方法 カ 顕微鏡視野面積、計数視野数 キ 測定時（各測定場所ごと）の天候、温度、湿度、外気の風速及び風向 ク 周辺地形や捕集時の状況を撮影した写真	適 用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点数 (各処理作業ごと)	備考	レベル1	レベル2	レベル3	測定1	処理作業前	処理作業室内	※各2点・各3点		○	○	・	測定2	処理作業前	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点		○	○	・	測定3	処理作業中	処理作業室内	各2点		○	・	・	測定4	処理作業中	セキュリティゾーン入口	各1点	空気の流れを確認	○	・	・	測定5	処理作業中	負圧・除じん装置の排出口（処理作業室外の場合）	各1点	除じん装置の性能確認	○	○	・	測定6	処理作業中	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点		○	○	・	測定7	処理作業後	処理作業室内	各2点（レベル3は1点）		○	○	・	測定8	処理作業後 (隔離シート撤去前)	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点		○	○	・	測定9	処理作業後	処理作業室内	各2点（レベル3は1点）		○	○	・	測定10	処理作業後 (シート撤去後1週間以降)	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点			測定3	測定1, 2, 4, 6, 7, 8, 9, 10	測定5	計数機器	位相差・分散顕微鏡			ファンノックの直径	25 mm		47 mm	試料の吸引流量	1 l/min	5 l/min	10 l/min	試料の吸引時間	5 min	120 min	240 min	試料の透明化	アセトントリアセチレン法又は、シュウ酸ジエチル法			計数条件	総アスベスト繊維数 200 本又は視野数 50 視野			計数アスベスト	直径(幅) 3µm 未満、長さ 5µm 以上、長さ直径比 3:1 以上の繊維状物質			定量限界	50 f/l	0.5 f/l	0.3 f/l
適 用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点数 (各処理作業ごと)	備考																																																																																																																						
レベル1	レベル2	レベル3	測定1	処理作業前	処理作業室内	※各2点・各3点																																																																																																																					
○	○	・	測定2	処理作業前	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点																																																																																																																					
○	○	・	測定3	処理作業中	処理作業室内	各2点																																																																																																																					
○	・	・	測定4	処理作業中	セキュリティゾーン入口	各1点	空気の流れを確認																																																																																																																				
○	・	・	測定5	処理作業中	負圧・除じん装置の排出口（処理作業室外の場合）	各1点	除じん装置の性能確認																																																																																																																				
○	○	・	測定6	処理作業中	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点																																																																																																																					
○	○	・	測定7	処理作業後	処理作業室内	各2点（レベル3は1点）																																																																																																																					
○	○	・	測定8	処理作業後 (隔離シート撤去前)	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点																																																																																																																					
○	○	・	測定9	処理作業後	処理作業室内	各2点（レベル3は1点）																																																																																																																					
○	○	・	測定10	処理作業後 (シート撤去後1週間以降)	施工区画周辺又は敷地境界	4方向各1点																																																																																																																					
	測定3	測定1, 2, 4, 6, 7, 8, 9, 10	測定5																																																																																																																								
計数機器	位相差・分散顕微鏡																																																																																																																										
ファンノックの直径	25 mm		47 mm																																																																																																																								
試料の吸引流量	1 l/min	5 l/min	10 l/min																																																																																																																								
試料の吸引時間	5 min	120 min	240 min																																																																																																																								
試料の透明化	アセトントリアセチレン法又は、シュウ酸ジエチル法																																																																																																																										
計数条件	総アスベスト繊維数 200 本又は視野数 50 視野																																																																																																																										
計数アスベスト	直径(幅) 3µm 未満、長さ 5µm 以上、長さ直径比 3:1 以上の繊維状物質																																																																																																																										
定量限界	50 f/l	0.5 f/l	0.3 f/l																																																																																																																								

4 7μm以上含有吹き付け材の撤去（レベル1）	アスベスト含有吹き付け材の除去 [9.1.3] ・ 行う 除去方法は9.1.3による他、除去の部位・内容に応じた除去は専門工事業者の仕様とする。 除去物及び汚染物質等 処理方法 ※密封処理（二重被覆包） 隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルタ、粉じん捕集フィルタについても密封処理を行う。 ・セメント固化 処理を行う吹き付けアスベストの仕様 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料 名</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>処 理 を 行 う 範 囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	材 料 名	厚さ (mm)	処 理 を 行 う 範 囲			※ 図示																								
材 料 名	厚さ (mm)	処 理 を 行 う 範 囲																													
		※ 図示																													
5 7μm以上含有保温材等の撤去（レベル2）	アスベスト含有保温材の除去 [9.1.4] ・ 行う 作業上の隔離 ・ 行う ・ 行わない 処理を行う保温材等アスベストの仕様 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料 名</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>処 理 を 行 う 範 囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	材 料 名	厚さ (mm)	処 理 を 行 う 範 囲			※ 図示																								
材 料 名	厚さ (mm)	処 理 を 行 う 範 囲																													
		※ 図示																													
6 7μm以上含有成形板類の撤去（レベル3）	1 アスベスト含有成形板の除去 [9.1.5] ・ 行う 処理を行うアスベスト成形板の仕様等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料 名 (製品名)</th> <th>含有するアスベストの種類</th> <th>処 理 を 行 う 範 囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・</td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> </tbody> </table> 2 非石綿部での切断による除去 ○ 行う 処理を行うアスベスト含有物の仕様等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料 名</th> <th>含有するアスベストの種類</th> <th>処 理 を 行 う 範 囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 吸引ポンプフランジパッキン</td> <td>・ クリソタイル</td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td>※ 図示</td> </tr> </tbody> </table> ※なお、石綿含有保温材付配管については、飛散のおそれ考慮し、一部レベル2の対応を図るものとする。 ＜参考＞石綿使用有無の事前調査フロー <pre> graph TD A["(1) 設計図書による調査 ① 施工年による調査 ② 使用建築材料による調査"] --> B["可能性あり・不明"] A --> C["可能性なし"] B --> D["(2) 現場目視による調査 目視調査 (建材の確認)"] D --> E["可能性あり・不明"] D --> F["可能性なし"] E --> G["分析を実施しない場合"] E --> H["分析を実施する場合"] G --> I["石綿含有とみなす"] I --> J["石綿使用あり・届出要件確認・届出"] H --> K["(3) 分析調査による判定 JIS A 1481-2「建設製品中のアスベスト含有率測定方法」など"] K --> L["石綿含有0.1%を超えていると判断"] L --> I K --> M["石綿含有0.1%以下と判断"] M --> N["石綿使用なし"] </pre> ＜参考＞非飛散性石綿含有建材を除去する時の作業フロー <ol style="list-style-type: none"> 成形された配管保温材等を原形のまま取り外しによる除去（レベル2） 成形された配管保温材等を原形のまま取り外す場合には、石綿飛散の程度が比較的低いことから、隔離養生（負圧不要）、散水等による湿潤化による石綿の飛散防止措置を行い、次の手順で除去する。なお、劣化し石綿飛散のおそれがある場合には、石綿含有吹き付け材等の切断等による除去と同等の措置を講じる。また、作業中に事前調査により把握していない飛散性石綿含有建材が確認された場合には、直ちに作業を中止し、飛散防止措置を講ずるとともに、関係機関に通報する。 	材 料 名 (製品名)	含有するアスベストの種類	処 理 を 行 う 範 囲	・		※ 図示	材 料 名	含有するアスベストの種類	処 理 を 行 う 範 囲	・ 吸引ポンプフランジパッキン	・ クリソタイル	※ 図示	・		※ 図示	・		※ 図示	・		※ 図示									
材 料 名 (製品名)	含有するアスベストの種類	処 理 を 行 う 範 囲																													
・		※ 図示																													
・		※ 図示																													
・		※ 図示																													
・		※ 図示																													
材 料 名	含有するアスベストの種類	処 理 を 行 う 範 囲																													
・ 吸引ポンプフランジパッキン	・ クリソタイル	※ 図示																													
・		※ 図示																													
・		※ 図示																													
・		※ 図示																													

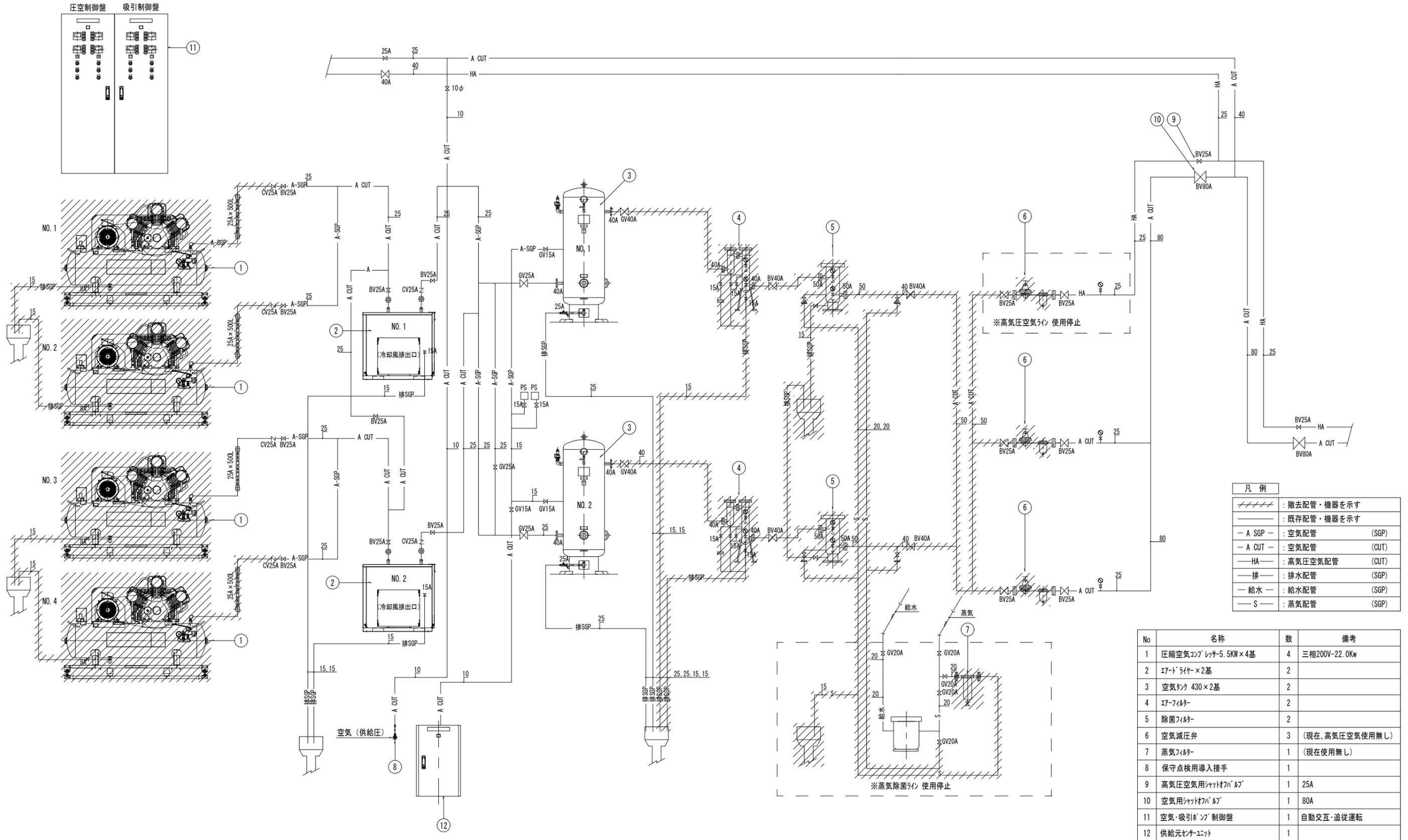
<p>＜作業フローチャート＞</p> <p>石綿作業主任者の選任 作業員への特別教育の実施 工事計画・要領書の作成・届出 必要機器・資材の準備・調達 除去工事実施の表示 事前清掃 周辺の養生 粉じん飛散抑制剤の散布・浸透 原形のまま取り外し 取り残しがないことの確認 除去面に粉じん飛散防止処理剤散布 養生材の清掃または粉じん飛散抑制剤散布 養生の除去 最終清掃 作業記録</p> <p>外部から見やすい位置に掲示する。 成養生以外に開口部もシート等で養生する。 破損した場合は、高性能真空掃除機で清掃する。 所管行政の指導により、特別管理産業廃棄物として最終処分</p>	<p>2 非石綿部での切断による除去【ダクトパッキン・配管パッキン】（レベル3）</p> <p>建築物のダクトには、接合部に石綿含有物が使用されていることが多い。この場合、直接石綿含有物に触れるわけではないので、石綿繊維の飛散のおそれがない場合には、大気汚染防止法の届出は不要とされている。ただし、石綿障害予防規則では、石綿取り扱いは作業にも該当しないものの、計画の届出は必要とされている。</p> <p>＜作業フローチャート＞</p> <p>石綿作業主任者の選任 作業員への特別教育の実施 作業計画の作成・作業の届出 必要機器・資材の準備・調達 除去工事実施の表示 事前清掃 石綿含有部分以外の部分で切断 プラスチックシートまたは袋で二重被覆 最終清掃 作業記録</p> <p>石綿含有「パッキング」 ジョイントボックス ダクトジョイントパッキン 切断 鉄締め ダクト鉄板 切断 参考図1 設備機器ダクト接合部の除去方法</p> <p>参考図2 配管フランジパッキンの除去方法 石綿含有「パッキング」 切断 ガス管 切断</p>	<p>3 非石綿部での切断による除去【配管保温材】（レベル2）</p> <p>直接石綿含有保温材に触れるわけではないので、石綿繊維の飛散のおそれがない場合には、大気汚染防止法の届出は不要とされている。ただし、石綿障害予防規則では、石綿取り扱いは作業にも該当しないものの、計画の届出は必要とされている。</p> <p>＜作業フローチャート＞</p> <p>石綿作業主任者の選任 作業員への特別教育の実施 工事計画・要領書の作成・届出 必要機器・資材の準備・調達 除去工事実施の表示 事前清掃 周辺の養生 配管エルボ部をポリシートまたは養生テープで養生 配管エルボ部を湿らしたウエス等で湿潤化 石綿含有部分以外の部分で切断 薬液で安定化し、プラスチックシートまたは袋で二重被覆 最終清掃 作業記録</p> <p>外部から見やすい位置に掲示する。 開口部等をシート等で養生する。 作業に選した呼吸器用保護具・専用の作業衣着用 切断部分の収集・運搬 最終処分 ※廃棄する場合、特別管理産業廃棄物として管理責任者を選任し適正に処理すること。</p> <p>参考図3 石綿含有保温材付配管の除去方法 養生テープ 石綿含有保温材 ポリシート 養生テープ 切断 10cm以内 切断</p>				
設計年月日 R06.03.21	地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 本 部	本部長 管理幹 主 幹 主 査 主 査 担 当	縮 尺	工 事 名 称 24循環器・呼吸器病センター 医療ガス棟医療ガス設備改修工事	図 面 名 機械設備工事特記仕様書（3）	図面番号 M-03



案内図

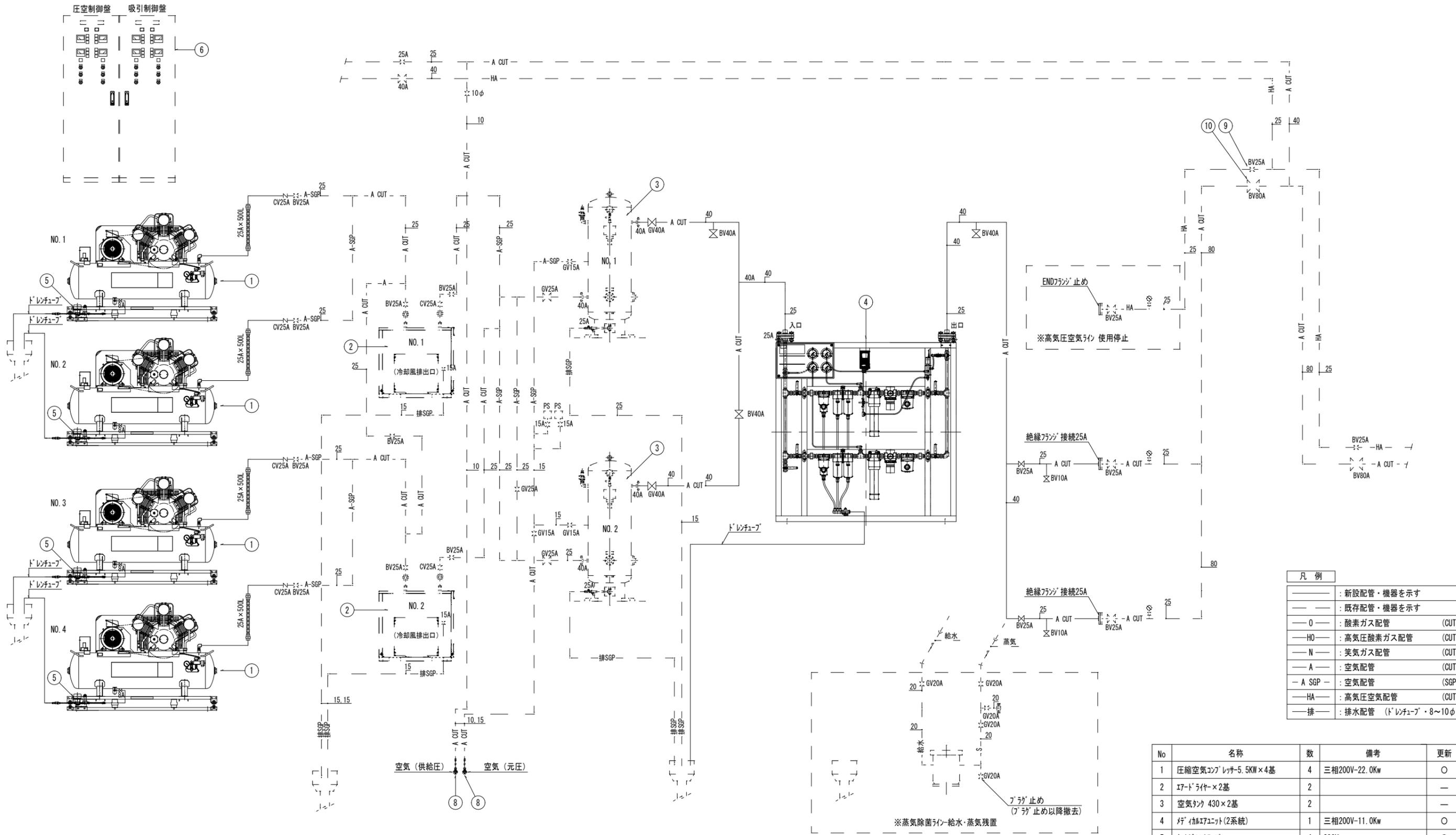
地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 本部	本部長	管理幹	主幹	主査	担当
----------------------------	-----	-----	----	----	----

摘要	設計年月日 R06年03月21日	変更年月日	照査 栗木	設計 栗木	製図 佐藤 大谷	有限会社 クラフト設備設計 建築設備士 第61C1-2681M 号一級建築士 第337527号 栗木 薫 本社 〒360-0824 熊谷市見晴町3番地 TEL 048-521-6300 高崎 〒370-0862 高崎市片岡町3-1-5 TEL 027-324-1032	工事名称 24循環器・呼吸器病センター 医療ガス棟医療ガス設備改修工事 図面名 案内・配置図	設計図 縮尺 A 1 : 600 A3 1 : 1200	図面番号 M - 04
----	---------------------	-------	----------	----------	-------------	--	--	------------------------------------	----------------



地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 本部	本部長	管理幹	主幹	主査	担当

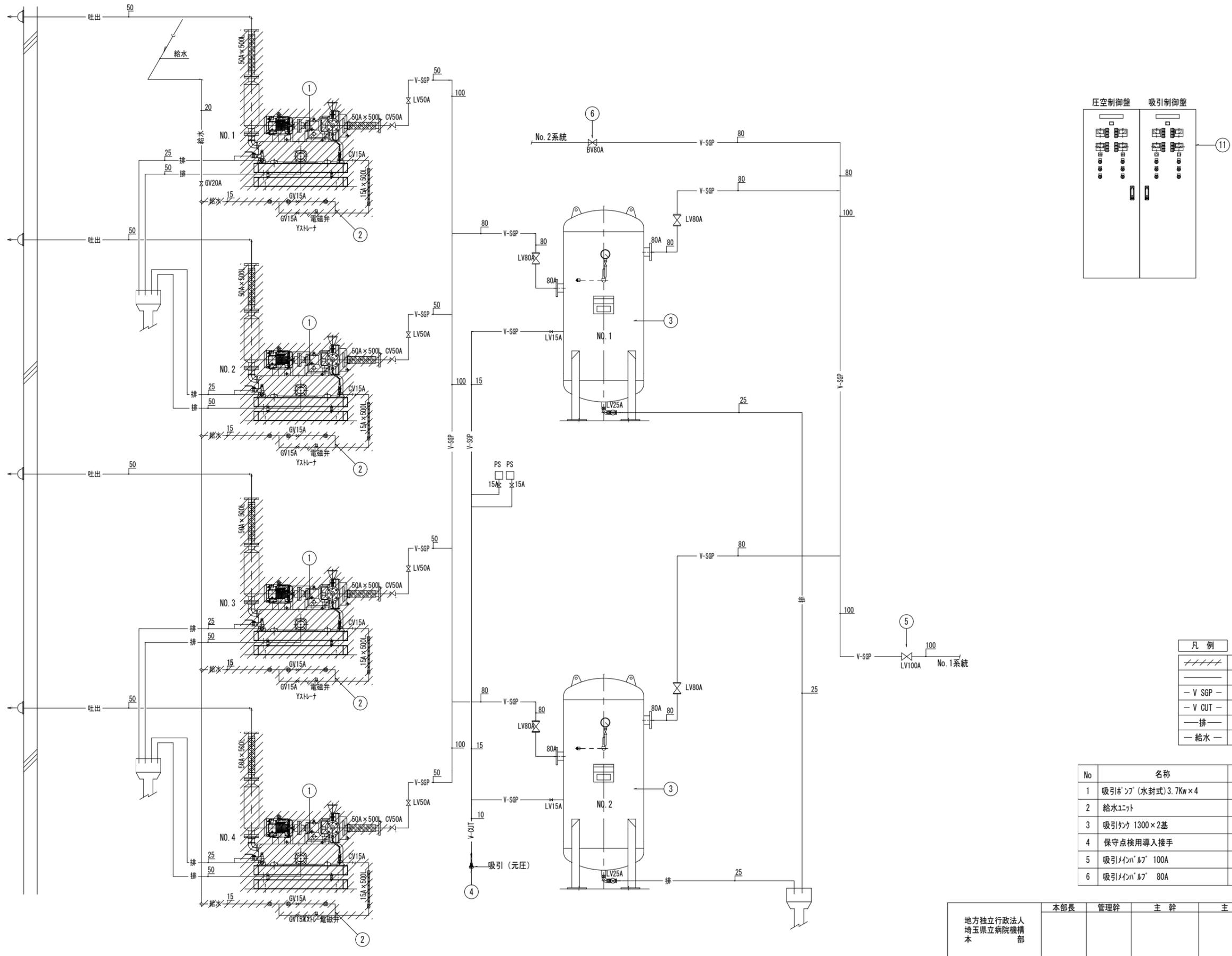
※制御盤は、内部ﾊﾞｰｯ交換のみ



凡例	
— (solid line) —	: 新設配管・機器を示す
- - - (dashed line) - - -	: 既存配管・機器を示す
— O —	: 酸素ガス配管 (CUT)
— HO —	: 高気圧酸素ガス配管 (CUT)
— N —	: 笑気ガス配管 (CUT)
— A —	: 空気配管 (CUT)
— A SGP —	: 空気配管 (SGP)
— HA —	: 高気圧空気配管 (CUT)
— 排 —	: 排水配管 (ドレンチューブ・8~10φ)

No	名称	数	備考	更新
1	圧縮空気ｺﾝﾌﾟレッﾀｰ5.5KW×4基	4	三相200V-22.0Kw	○
2	ｱｰﾄﾞﾗｲﾎﾞｰ×2基	2		—
3	空気ﾀﾝｸ 430×2基	2		—
4	ﾌﾞﾗｲﾀﾞｲﾎﾞｰ(2系統)	1	三相200V-11.0Kw	○
5	オートﾄﾞﾚﾝﾀﾞｯﾌﾟ	4	200V	○
6	空気・吸引ﾄﾞﾚﾝｯﾝｸﾞ制御盤	1	自動交互・追従運転	ﾊﾞｰｯ交換
7	蒸気除菌ﾀｲﾝ	1式	給水・蒸気	※残置

地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 本部	本部長	管理幹	主幹	主査	担当

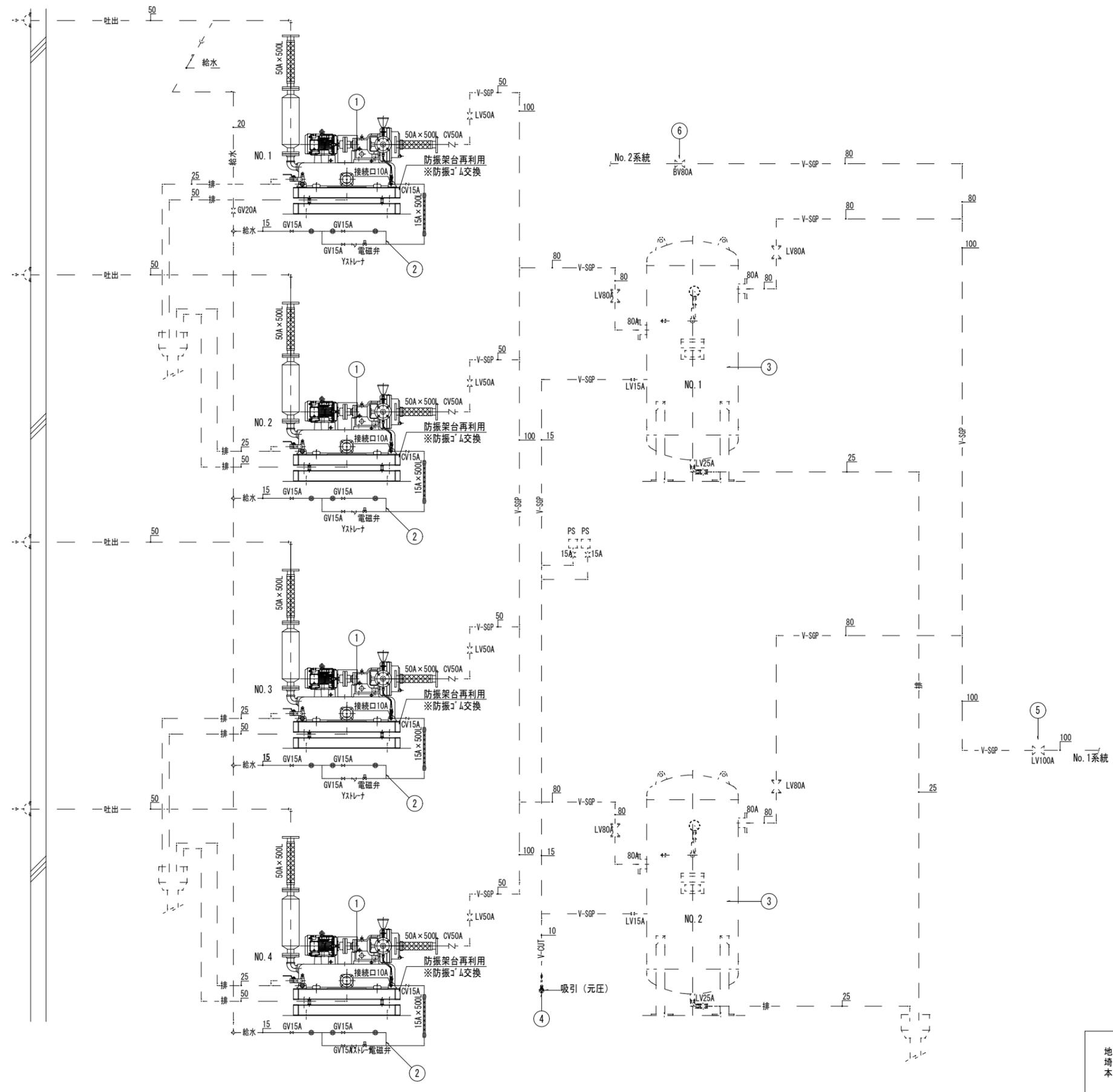


凡例	
////	: 撤去配管・機器を示す
—	: 既存配管・機器を示す
- V SGP -	: 吸引配管 (SGP)
- V CUT -	: 吸引配管 (CUT)
—排—	: 排水配管 (SGP)
—給水—	: 給水配管 (SGP)

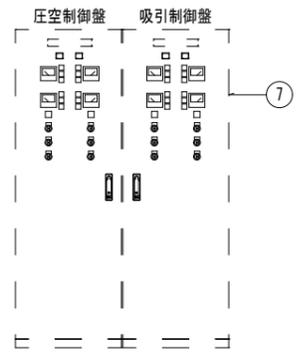
No	名称	数	備考
1	吸引ポンプ (水封式) 3.7kw×4	4	三相200V-14.8kw
2	給水ユニット	4	電磁弁 (パイプスライ含む)
3	吸引タンク 1300×2基	2	
4	保守点検用導入接手	1	
5	吸引メインバルブ 100A	1	No. 1系統
6	吸引メインバルブ 80A	1	No. 2系統

	本部長	管理幹	主幹	主査	担当
地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 本部					

摘要	設計年月日 R06年03月21日	変更年月日	照査 栗木	設計 栗木	製図 佐藤 大谷	有限会社 クラフト設備設計 建築設備士 第61C1-2681M 号一級建築士 第337527号 栗木 薫 本社 〒360-0824 熊谷市見晴町3番地 TEL 048-521-6300 高崎 〒370-0862 高崎市片岡町3-1-5 TEL 027-324-1032	工事名称 24循環器・呼吸器病センター 医療ガス棟 医療ガス設備改修工事 図面名 吸引設備 系統図(改修前)	設計図 図面番号 M - 07 縮尺 A 1 : NON A 3 : NON
----	---------------------	-------	----------	----------	-------------	--	--	---



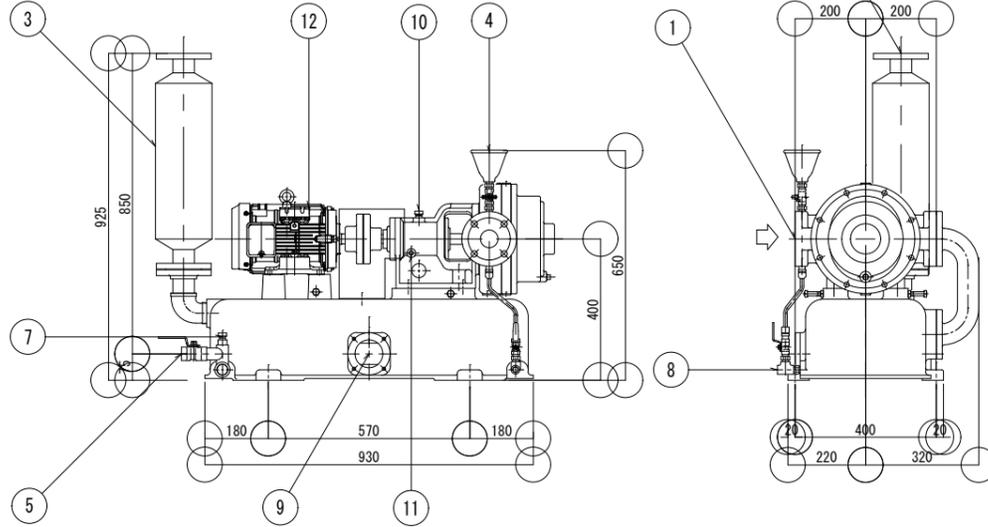
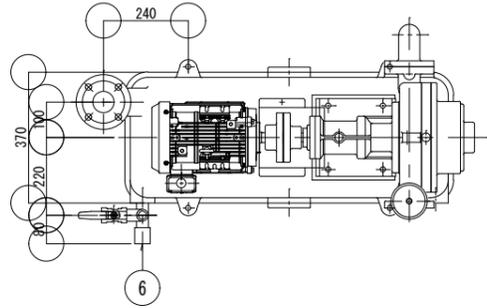
※制御盤は、内部ハ-ワ交換のみ



凡例	
— (solid line) —	: 新設配管・機器を示す
- - - (dashed line) - - -	: 既存配管・機器を示す
- V SGP -	: 吸引配管 (CUT)
— 吐 —	: 吸引吐出配管 (CUT)
— 給 —	: 給水配管 (SGP-白)
— 排 —	: 排水配管 (VP)

No	名称	数	備考	更新
1	吸引ポンプ (水封式) 3.7kw x 4	4	三相200V-14.8kw	○
2	給水ユニット	4	電磁弁 (ハ-ワ交換含む)	○
3	吸引枠 1300 x 2基	2		—
4	保守点検用導入接手	1		—
5	吸引メインバルブ 100A	1	No. 1系統	—
6	吸引メインバルブ 80A	1	No. 2系統	—
7	空気・吸引ポンプ制御盤	1	自動交互・追従運転	ハ-ワ交換

地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 本部	本部長	管理幹	主幹	主査	担当



塗装色 5B 4/1.5

12	モーター	1	-	全閉外扇 屋内 IE3
11	排油口	1	FC250	Rp 1/4 プラグ付
10	注油口	1	FC250	Rc 3/8 プラグ付
9	水面計	1	アクリル	
8	補給水入口	1		3/8B プラグ付
7	空気抜きプラグ	1	-	3/8B
6	ドレン抜き口	1	-	Rc 1 プラグ付
5	排水口	1	CAC406	Rc 1 パルプ付
4	注水口	1	-	ファンネル
3	サイレンサー	1	-	
2	吐出口	1	-	JIS 10K 50A フランジ※
1	吸込口	1	FC250	JIS 10K 50A フランジ※
番号	名称	数量	材質	備考

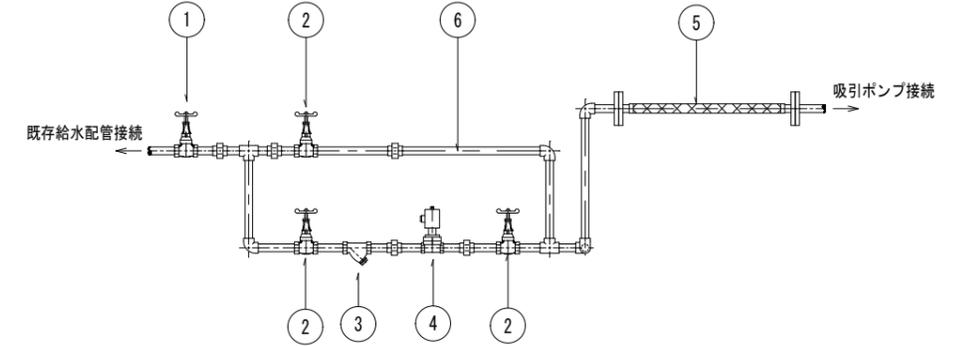
仕様

出力	3.7kW
電源 (50/60Hz)	AC200/200.220V
電流 (50/60Hz)	15.6/14.6, 13.8A
相数	3相
極数	4P
到達真空度	-80kPa
吸込容量 (吸込状態)	1260ℓ/min (-66.7kPa時)
約320/約315kg	
運転時重量 (50/60Hz)	約345/約340kg
設置条件	屋内、大気圧下、5~40℃
騒音値 (50/60Hz)	72.7/79.6dB (-66.7kPa時)
振動値 (50/60Hz)	5μm以下
発熱量	470kcal/h

(圧力はゲージ圧とする)

※交換は、吸引ポンプ本体（架台・防振架台は最利用）

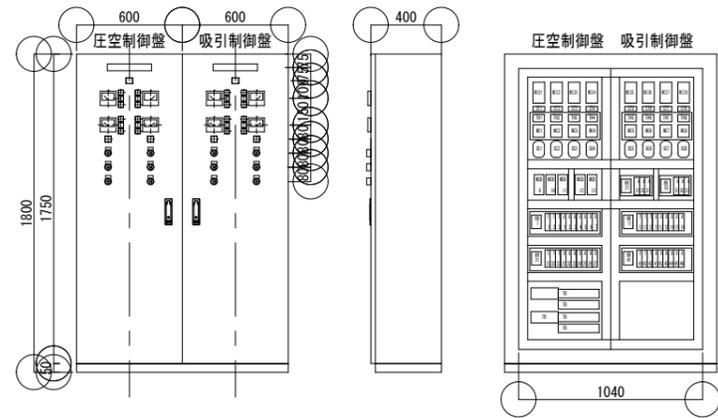
製作品



6	配管	1	亜鉛メッキ	15A SGP-VA
5	フレキシブルチューブ	1		
4	電磁弁(2方弁)	1	黄銅	15A 通電開 200V
3	Y型ストレーナ	1	黄銅	15A コアコート
2	給水バルブ 15A	3	黄銅	15A ゲート弁 コアコート
1	給水配管分岐バルブ 15A	1	黄銅	15A ゲート弁 コアコート
番号	名称	数量	材質	備考

空気・吸引制御盤

改修 1面



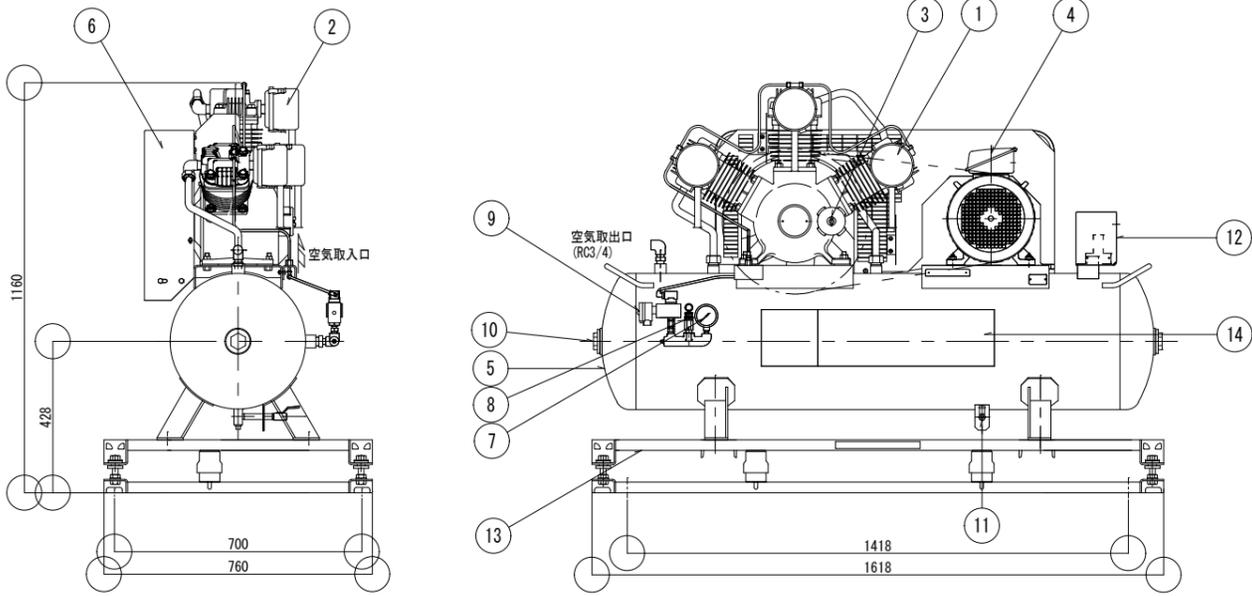
圧空・吸引制御盤内交換パーツ

1	マグネットスイッチ (1)	4
2	サーマルリレー	8
3	マグネットスイッチ (2)	4
4	ラチェットリレー	6
5	ソリッドステートタイマー(1)	8
6	ソリッドステートタイマー(2)	4
7	ミニパワーリレー (1)	14
8	ミニパワーリレー (2)	18
9	取付けベース・保持金具	1式

□ パーツ交換

※交換は、一次ブレーカー以降のパーツ交換（制御盤等は最利用）

地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 本部	本部長	管理幹	主幹	主査	担当
----------------------------	-----	-----	----	----	----

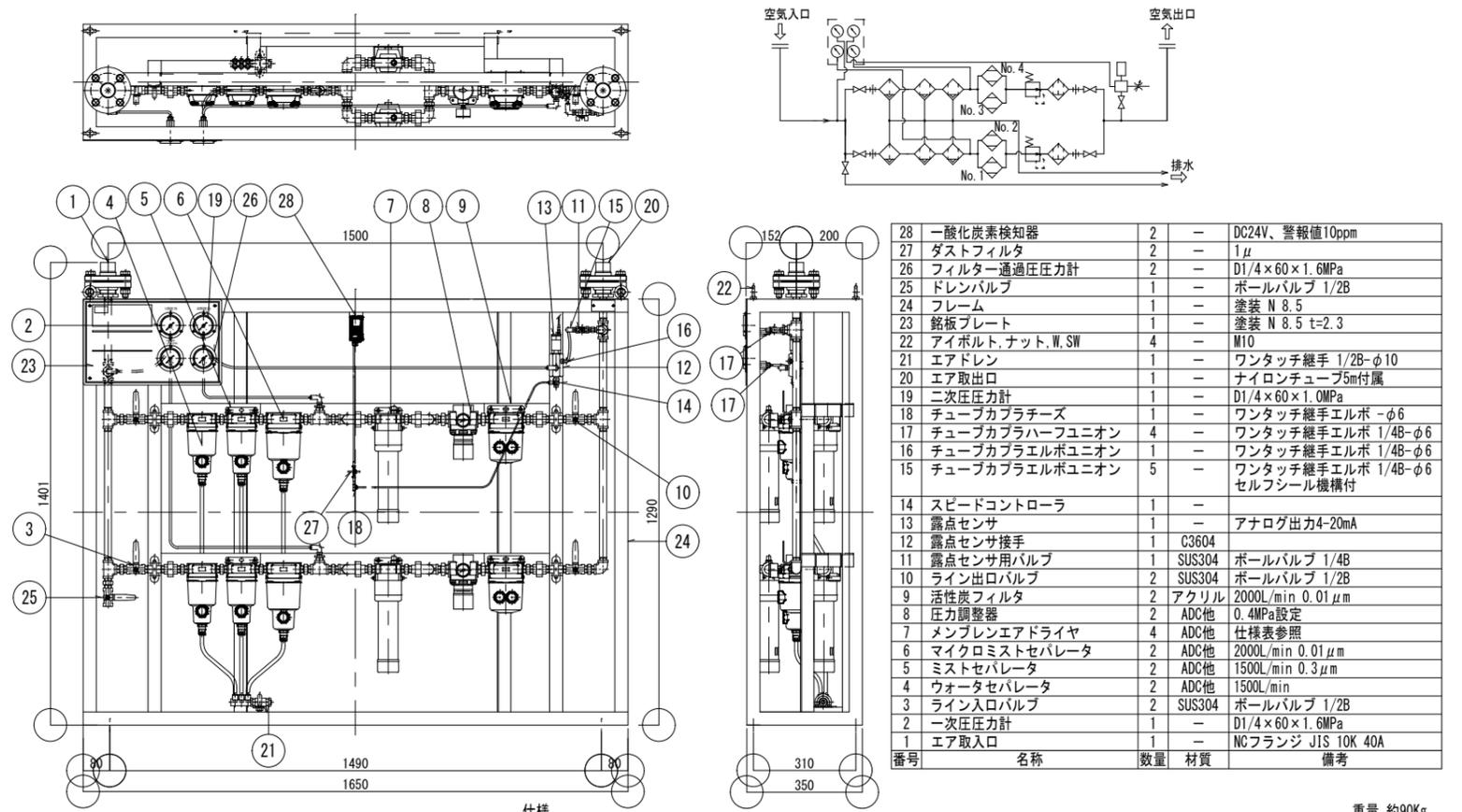


仕様

圧縮機	最高圧力	0.93 MPa
	回転速度	860 min ⁻¹
	吐出空気量	605 L/min
電動機	出力	5.5 kW
	極数	4 P
	回転速度 (50/60Hz)	1460/1755・1765min ⁻¹
	電圧 (50/60Hz)	三相 AC200/200・220V
	定格電流 (50/60Hz)	21.6/20.6・19.2 A
	起動電流 (50/60Hz)	203/167・184 A
	タンク容量	170 L
重量	コンプレッサー	231 kg
	防振架台	44 kg

(圧力はゲージ圧とする)
コンプレッサー 塗装色: E25-80A(マンセルNo. 5Y8/0.5)
防振架台: 溶融亜鉛めっき

14	銘板	1	-	
13	防振架台	1	STKR	
12	ターミナルボックス	1	SPCC	
11	ドレンバルブ	1	C3604	1/4Bボールバルブ
10	検査穴栓	2	-	40A
9	三方電磁弁	1	-	(起動負荷軽減用)
8	安全弁	1	C3604	1.05MPa 設定
7	圧力計	1	-	D4 1/4×50×2MPa
6	ベルトオイル	1	SPCC	
5	タンク	1	SS400	
4	電動機	1	-	全閉外扇型 F種 IE3
3	呼吸フィルタ	1	-	
2	消音器(空気取入口)	3	ナイロン他	
1	圧縮機本体	1	FC他	
番号	名称	数量	材質	備考



仕様

注. 下記の場合には、エレメント交換を行う。
1. 圧力降下が0.1MPaに達した場合。
2. 累積使用時間が2年を経過した場合。

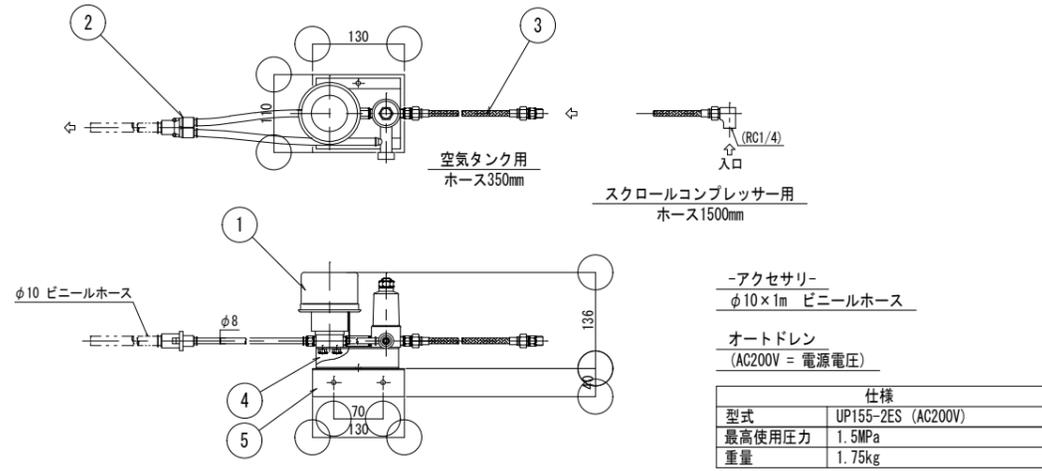
名称	入口空気量	パージ流量	露点センサ流量	出口空気量	入口圧力	入口空気温度	最高使用圧力	露点 (0.4MPa下)
メンブレンエアドライヤ	1260L/min	250L/min	3L/min	1007L/min	0.7MPa	30℃	0.99MPa	+2℃以下

28	一酸化炭素検知器	2	-	DC24V、警報値10ppm
27	ダストフィルタ	2	-	1μ
26	フィルタ通過圧力計	2	-	D1/4×60×1.6MPa
25	ドレンバルブ	1	-	ボールバルブ 1/2B
24	フレーム	1	-	塗装 N 8.5
23	銘板プレート	1	-	塗装 N 8.5 t=2.3
22	アイボルト、ナット、W.SW	4	-	M10
21	エアドレン	1	-	ワンタッチ継手 1/2B-φ10
20	エア取出口	1	-	ナイロンチューブ5m付属
19	二次圧力計	1	-	D1/4×60×1.0MPa
18	チューブカプラチース	1	-	ワンタッチ継手エルボ -φ6
17	チューブカプラハーフユニオン	4	-	ワンタッチ継手エルボ 1/4B-φ6
16	チューブカプラエルボユニオン	1	-	ワンタッチ継手エルボ 1/4B-φ6
15	チューブカプラエルボユニオン	5	-	ワンタッチ継手エルボ 1/4B-φ6 セルフシール機構付
14	スピードコントローラ	1	-	
13	露点センサ	1	-	アナログ出力4-20mA
12	露点センサ接手	1	C3604	
11	露点センサ用バルブ	1	SUS304	ボールバルブ 1/4B
10	ライン出口バルブ	2	SUS304	ボールバルブ 1/2B
9	活性炭フィルタ	2	アクリル	2000L/min 0.01μm
8	圧力調整器	2	ADC他	0.4MPa設定
7	メンブレンエアドライヤ	4	ADC他	仕様表参照
6	マイクロミストセパレータ	2	ADC他	2000L/min 0.01μm
5	ミストセパレータ	2	ADC他	1500L/min 0.3μm
4	ウォーターセパレータ	2	ADC他	1500L/min
3	ライン入口バルブ	2	SUS304	ボールバルブ 1/2B
2	一次圧力計	1	-	D1/4×60×1.6MPa
1	エア取入口	1	-	NCフランジ JIS 10K 40A
番号	名称	数量	材質	備考

重量 約90kg

オートドレントラップ

新設 4台

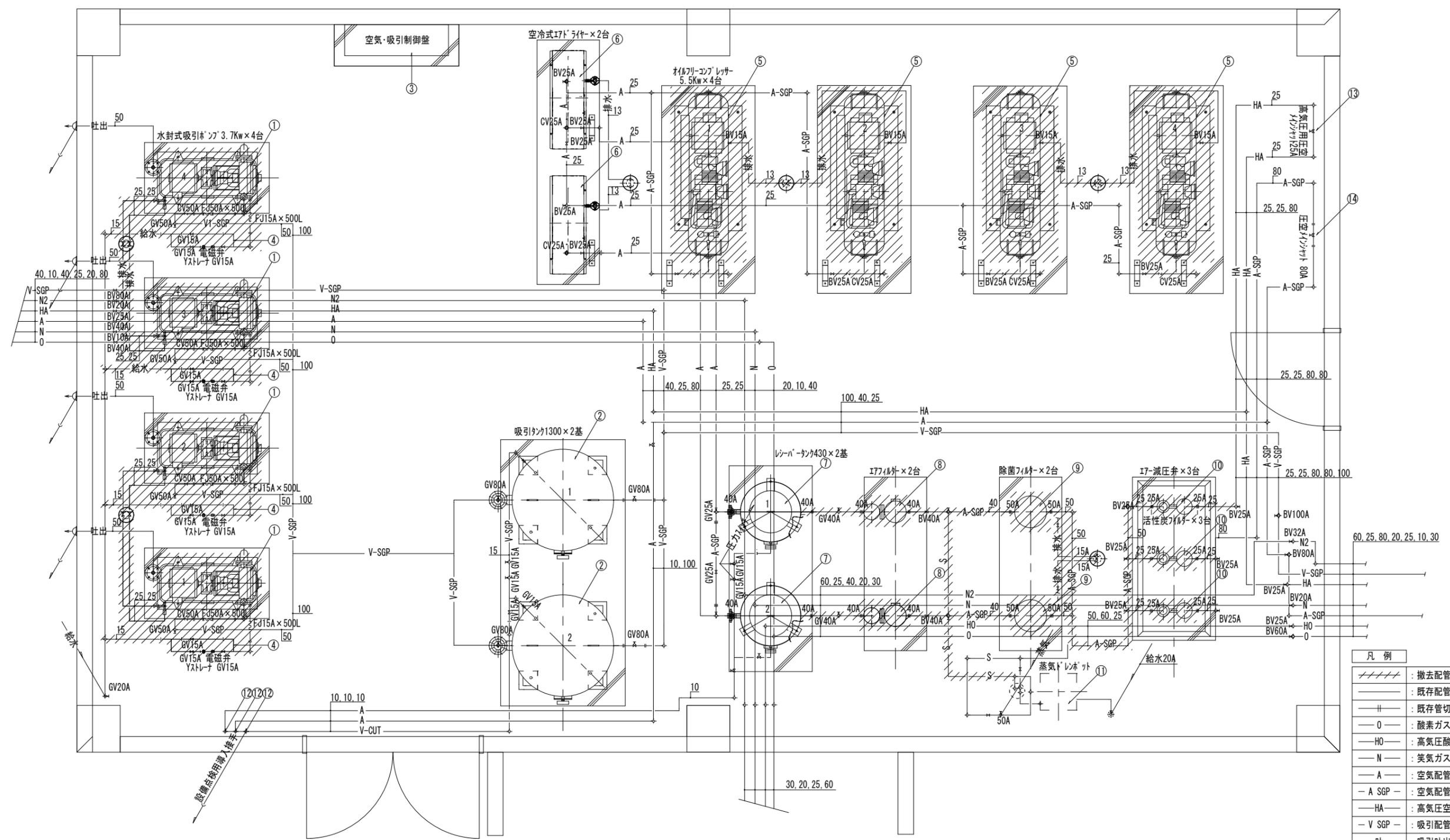


-アクセサリ-
φ10×1m ビニールホース
オートドレン
(AC200V = 電源電圧)

仕様	
型式	UP155-2ES (AC200V)
最高使用圧力	1.5MPa
重量	1.75kg

5	ベース	1	SPCC	1.6 t(別途)
4	ベース	1	SPCC	1.6 t
3	ホースセット	1		標準タイプ: G1/4B × 350mm スクロールコンプレッサー用は Rc1/4 × 1500mm
2	Y タイプユニオン	1		KQ2U 08-10 KQH 1/4 φ8
1	オートドレンセット	1	H3250	
番号	名称	数量	材質	JIS規格 備考

地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 本部	本部長	管理幹	主幹	主査	担当
----------------------------	-----	-----	----	----	----



凡例	
	: 撤去配管・機器を示す
	: 既存配管・機器を示す
	: 既存管切断を示す
	: 酸素ガス配管 (CUT)
	: 高気圧酸素ガス配管 (CUT)
	: 笑気ガス配管 (CUT)
	: 空気配管 (CUT)
	: 空気配管 (SGP)
	: 高気圧空気配管 (CUT)
	: 吸引配管 (CUT)
	: 吸引吐出配管 (CUT)
	: 給水配管 (SGP 白)
	: 排水配管 (VP)

No	名称	数	備考	No	名称	数	備考	No	名称	数	備考
1	吸引ポンプ(水封式) 3.7kw×4	4	三相200V-14.8kw	6	エアドライヤー×2基	2		11	蒸気トラップ	1	(現在使用無し)
2	吸引タンク(縦型)×2基	2	1300×2基	7	空気タンク 430×2基	2		12	保守点検用導入接手	3	
3	空気吸引ポンプ制御盤	1	自動交互・追従運転	8	エアフィルター	2		13	高気圧空気用ジャットバルブ	1	25A
4	給水ユニット	4		9	除湿フィルター	2		14	空気用ジャットバルブ	1	80A
5	圧縮空気コンプレッサ 5.5kw×4基	4	三相200V-22.0kw	10	空気減圧弁	3	(現在、高気圧空気使用無し)				

地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 本部	本部長	管理幹	主幹	主査	担当

